

江原総領事のブルサ県訪問 (2016年3月17日～18日)

3月17日～18日、江原総領事は、ブルサ日本文化週間「富士山からウル山へ」の機会を捉えてブルサ県を訪問し、ミュニル・カラオール・ブルサ県知事、アブドゥッラー・カラダー・ブルサ市副市長、ナズル・ヤズガン・ニルフェル区副区長をそれぞれ表敬訪問・会談するとともに、ブルサ・ウルヤマ・トルコ日本友好協会事務所を訪問し、メンバーと懇談しました。

トルコ第4の都市であるブルサは、オスマン帝国最初の首都が置かれた古都であり、2014年にはブルサ市内のオスマン帝国時代の遺産が世界遺産に認定されています。また、自動車産業等が盛んなトルコを代表する産業都市でもあります。

江原総領事は、カラオール県知事に対し、在留邦人、日系企業及び旅行者の皆様の安全確保のための一層の協力を要請しました。カラダー副市長との間では、今後のブルサ市との間での文化・経済交流の活発化について議論しました。また、ヤズガン・ニルフェル区副区長は、姉妹都市である愛知県東海市との交流活動は区の財産であると述べ、当館としても自治体間交流を積極的に支援していきたいと伝えました。

また、江原総領事は、ブルサ・ウルヤマ・トルコ日本友好協会の事務所を訪問し、カプラン会長ら協会メンバーによる日頃からの文化交流事業に対する大きな貢献と協力に感謝の意を表しました。



カラオール・ブルサ県知事



カラダー・ブルサ市副市長



ヤズガン・ニルフェル区副区長



ブルサ・ウルヤマ・トルコ日本友好協会
事務所訪問の様子